



げんきっこ



2023年



看護師
徳永

暑い季節がやってきました。戸外に出る時間を考慮し、日陰で遊んだり、こまめに水分補給したりと熱中症にならないように気をつけましょう。また、暑さで疲れて夏特有の病気にもかかったりします。インフルエンザ、RSウイルス感染症など新型コロナまん延後は色々な感染症が時期を問わず流行っています。無理せず、十分な休息・睡眠をとる等しっかり対策して子どもたちの大好きな夏を元気に楽しみ、たくさん思い出を作りましょう。

夏に多い感染症



手足口病

手のひらや足の裏、足の甲、口の中に発疹（水疱）ができます。発熱することもあります。食事がとりにくくなるため、のど越しのよい物を食べましょう。



熱が下がって水分や食事がとれるようになるまでお休みしましょう。**登園届**（医師の指示を受け保護者記入）が必要です。

咽頭結膜熱（プール熱）

高熱、のどの痛み、目の充血やかゆみなど結膜炎の症状もみられます。アデノウイルスによる感染症で、感染力が強くプールに入らなくても、飛沫感染、接触感染でうつります。



感染したら医師の指示に従い、許可を得てから登園しましょう。症状がなくなってから2日経過するまでお休みが必要です。**意見書**（医師記入の登園許可書）が必要です。

ヘルパンギーナ

のどの痛みを伴う、39℃以上の高熱が2～4日間続きます。のどの奥が赤くなり小さな水疱やかいようがみられるのが特徴です。



熱が下がって水分や食事がとれるようになるまでお休みしましょう。**登園届**（医師の指示を受け保護者記入）が必要です。

とびひ

（伝染性膿痂疹）

すり傷や虫刺され、あせも、湿疹などに化膿菌が入り込んで水ぶくれができます。これをかきこわした手で他の場所を掻くと、そこにまた水ぶくれが「とびひ」します。夏に多い病気です。

対処・予防



- 患部の**清潔を保つ**ことが大切です。石鹸をよく泡立ててやさしく患部を洗い、シャワーでしっかり洗い流すようにします。
- 掻いて広がるのを防いだり、他の人にうつるのを避けるため、患部は**ガーゼなどで覆って**おきます。登園時は**替えのガーゼの持参**もお願いします。
- タオルや衣類からうつる可能性もあるため、家族や友達との共用は控えます。洗濯は一緒に行っても大丈夫です。
- 日頃から爪を短く切り、虫刺されなどを掻いて皮膚を傷つけないように注意しましょう。
- プールは完治するまで、または医師の許可が出るまでは入れません。**